

【論文2】

原始仏教時代の暦法について

森 章司

【1】はじめに

[1] 本研究の総合的テーマはできるだけ詳細な「釈尊伝」と「釈尊教団形成史」、ならびに「時系列によって配列した原始仏教聖典目録」を作成しようとするものであるが、その準備として「釈尊年表」と個々の人物や寺院の「各伝」を作ることも目指している。

そのためには「年表」の基準となるべき釈尊の誕生日や成道年齢とその月日、入滅年齢とその月日などを確定しなければならない。

そしてそのためには、原始仏教聖典に記されている年齢は「満年齢」で数えられていたのか、「数え」であったのかを確定しなければならない。

また「数え」である場合は、その起点は何月の何日であったのかが問題となる。例えば釈尊の入滅日は‘ヴェーサーカ (vesākha) 月’の「満月の日」、あるいは‘ヴェーサーカ月’の「後半第8日」にあたるという場合、それは何月の何日に当たるかということである。多くの伝承では誕生日も成道日も入滅日も同じく‘ヴェーサーカ月’とされるに拘らず、それが漢訳経典では2月とされたり、4月とされたり、12月とされたりするのは、一に「暦」の問題にかかわっているのである。

そして何よりもどの月のどの日を年の始めとし、どの月のどの日を年の終わりとするかを確定できなければ、年ごとの「年表」は作れない。

本論文はこのような問題に答えるために、原始仏教時代の暦法がどのようなものであったかを調査・研究しようとしたものである。

しかるに筆者にはこの方面の基礎的知識がないので、以下の論考は全面的に次の著書・論文によった。

定方 晟「安居・布薩・シャカ生誕の日付」『仏教学』第3号 仏教学研究会 1997年4月25日（以下には「定方」と略記する）

L.ルヌー、J.フィリオザ編、山本智教訳『インド学大事典3』付録3 年代学の概念 金花舎 1981年9月20日（以下には「インド学」と略記する）

矢野道雄『占星術師たちのインド』（中公新書1084）中央公論社 1992年7月25日（以下には「矢野」と略記する）

鈴木良明「インド暦の研究（1）」『東洋学研究』第30号 東洋大学東洋学研究所 1993年3月30日（以下には「鈴木（1）」と略記する）

同 「インド暦の研究（2）——ヒンドゥー教の文化、ヴラタについて（1）——」『アジアにおける宗教と文化』東洋大学東洋学研究所 1994年3月31日（以下には「鈴木（2）」と略記する）